

令和 7 年度

「運営に関する計画」

大阪市立春日出小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立春日出小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】にかかわって**

- ① 学校で認知したいじめについては、いじめアンケートを定期的実施するとともに、教職員が日頃から児童を見取ったり会話したりして早期発見を心掛け、問題があった場合は早期対応に努めたため、100%解消できている。しかしながら、様々な問題に起因による不登校は発生しており、今後も家庭との連携はもとより、区役所やこどもサポートネット、こども相談センターなどの関係諸機関と連携を密にする必要がある。
- ② 防災・減災教育の推進では、ハザードマップ、防災チェックシート、防災マップの配付と活用などの取り組みを継続的に行っている。避難訓練は、年 3 回の実施をしている、これらの活動を継続的に行うとともに、児童のみならず教職員も含めて、防災意識の向上に努めていく必要がある。本校は、海拔 0 m より低い個所もあり、特に水害については、取り組みの充実に努める。
- ③ 道徳教育の推進では、教科との横断的な指導が不可欠となっている。年間指導計画を検討し、教科横断的な道徳教育を展開する。
- ④ インクルーシブ教育システムの充実と推進では、特別支援教育部会や全体会、校内委員会などを定期的開催し、校内での共有理解を深め、組織で対応できるように努める、また、児童の現状に応じて、保護者との連携を密に行いながら、個別支援計画を見直すなど、児童に寄り添ったかわりをめざす。さらに、学校全体でインクルーシブ教育システム構築を進めると同時に、支援を必要とする児童に対する周囲の理解を深めるため、今後も工夫して取り組みを行っていく。
- ⑤ 安全で安心できる学校、教育環境の実現では、学校生活チェックシートの活用により、児童 1 人ひとりが、毎月 1 回は学校生活を振り返る機会を設ける。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】にかかわって

- ① 令和 2 年度の学校評価アンケートにおいて「自分の考えをわかりやすく説明することができる」の肯定的回答は目標の 70% に対して 66.6% だったが、令和 3 年度は、73.7% と肯定的回答の割合が増えていることから、徐々に自らの「説明する力」「話す力」に自信がもてる児童が増えてきているということがわかる。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的回答は 74.2% から 85.2% と大きく増加しており、各学年で対話的な学習形態が定着しよりよい問題解決に向かって前向きに取り組み始めているということがわかる。今年度は学校評価アンケートにおける肯定的な回答の割合を増やしていくためにも、子どものメタ認知を促す具体的方策を検討し、学習の成果を確認し学力の向上を実感することや、自分の課題に気づき解決していこうとする意欲につなげていくことを通して自己肯定感を高める工夫が必要である。
- ② 重点目標を「跳ぶ」力の向上と設定し、教職員向けの研修会や運動場の環境整備を実施するとともに、体力づくり週間を「なわとび」に種目をしばって 3 回実施した。それぞれ基本的な跳び方、長なわとび、リズムなわとびと跳び方を変えることで、児童の意欲の向上と継続につなげることができ、児童の「跳ぶ」ことへの意識を高めることができた。全国体力・運動習慣等調査において「立ち幅跳び」は男女ともに全国平均を下回る結果となったが、「反復横跳び」は男女ともに全国平均を上回った。また、「50m 走」「20m シャトルラン」については男女ともに全国平均を上回っている。本校では平成 28 年度から平成 30 年度まで 3 年に渡って「走る力」に重点をおいて指導を重ねてきた。その成果が表れているものと思われる。したがって、「跳ぶ力」についても継続して指導を重ねることにより成果につながると考えられる。

校舎の増改築により運動場が狭い状態がしばらく続く。安全面の確保を第一に考えながら、体力の向上に向けての取り組みや方策を引き続き検討・改善していく必要がある。また、子どもたちが自分の体力の向上を実感できるようなツールの開発も進めていかなければならない。

【学びを支える教育環境の充実】にかかわって

- ① 国語科・算数科の基礎的・基本的な学習内容の理解の定着を目指し、朝の学習の時間を有効に活用していく必要がある。また、学力経年調査や全国学力学習状況調査の問題に対応できる力を

つけるため、校内で組織的に過去問題等の学習プリントに取り組んでいく。

各教室の授業用 PC に整備されているモジュール学習で利用できるソフトや英語関係の教材、国語・算数のデジタル教科書を活用し、それを大型テレビに投影することで児童の意欲や学習効果を高めることができた。また、タブレットの活用の仕方を研究し授業を公開することで、学校全体でタブレットの様々な機能や効果的な使い方を共有できた。学校評価アンケートにおいても、「ICT 機器を使った授業はわかりやすい」の肯定的な回答が 86.9%と目標の 80%を上回っており、取り組みの成果が見える。「プログラミング教育」においても ICT との関連は深いので、併せて研究・研修を進めていく。そのためにも、タブレットの台数やプログラミング教育の教材、通信環境の改善など ICT 機器を活用しやすい環境の整備が急務である。

- ② 超過勤務月 45 時間を超える教職員の割合が 15.38%であった。教材研究や諸会議、児童や保護者対応等で、勤務時間が超過している。校務支援システムの機能を通じて I C T機器を活用し、業務の効率化を図る。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ② 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ③ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査における、「国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査における、「毎日、同じぐらいの時刻にねて、同じぐらいの時刻に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 89%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- ② 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 84.9%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
(R6 年度 3 年 81.6% 4 年 83.6% 5 年 63.8% 6 年 86.8% 平均 78.9%)
- ② 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R6 年度 7 人)
- ③ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96%以上にする。
(R6 年度 3 年 91.8% 4 年 91.8% 5 年 93.7% 6 年 89.5% 平均 91.7%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。
(R6 年度 3 年 36.7% 4 年 36.1% 5 年 25.5% 6 年 28.9% 平均 31.8%)
- ② 小学校学力経年調査における、「国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント向上させる。
(R6 年度 3 年 56.5 ポイント 4 年 71.5 ポイント 5 年 75.9 ポイント)
- ③ 小学校学力経年調査における、「毎日、同じぐらいの時刻にねて、同じぐらいの時刻に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 89%以上にする。
(R6 年度 3 年 77.6% 4 年 68.8% 5 年 78.8% 6 年 73.3% 平均 74.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。(R6 年度 74.7%)
- ② 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 100%にする。(R6 年度 100%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立春日出小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(R6年度 3年81.6% 4年83.6% 5年63.8% 6年86.8% 平均78.9%) ② 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(R6年度7人) ③ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。 (R6年度 3年91.8% 4年91.8% 5年93.7% 6年89.5% 平均91.7%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめのない安全・安心で楽しい学校生活が送れるように年間を通じて学年・学級の実態に応じた指導を継続して行う。	
指標 ○ 学期に1回以上、「いじめについて考える日」を設定する。 ○ 各学級で年3回以上、道徳の授業を通して、いじめや差別を許さない学習を実施する。	
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 児童が学校生活を安心して過ごせるように、また、楽しみに登校できるように指導支援していく。	
指標 ○ 全教職員で児童理解を進めるため、スクリーニング会議Ⅰを月1回程度実施する。 ○ 学校生活の様子が分かるように、学校だより、ホームページを各学年月に1回以上更新する。	
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 たてわり班活動をはじめとする異学年交流を通じて、自己肯定感・自己有用感の向上に努める。	
指標 ○ 児童集会を可能な限り月に2回行う。 ○ 児童アンケートにおける「自分はだれかの役に立っていると思う」90%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組内容】について	
今後の改善点	

大阪市立春日出小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標通りに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。 (R6年度 3年36.7% 4年36.1% 5年25.5% 6年28.9% 平均31.8%)</p> <p>② 小学校学力経年調査における、「国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 (R6年度 3年56.5ポイント 4年71.5ポイント 5年75.9ポイント)</p> <p>③ 小学校学力経年調査における、「毎日、同じぐらいの時刻にねて、同じぐらいの時刻に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。 (R6年度 3年77.6% 4年68.8% 5年78.8% 6年73.3% 平均74.6%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>本年度の研究主題を「深い学びの実現に向けた指導法の工夫」として主体的・対話的な学習を通して学びを深められる授業研究を行う。それにより学びを深めるために基礎となる言語の習得、言語を活用する力の習得、相手の気持ちを大切に作る習慣づけに取り組んでいく。</p> <p>指標</p> <p>○ 国語科の学習において、1つの単元の中に1回以上話し合い活動の時間を設定する。</p> <p>○ 児童アンケートにおいて「先生や友だちの話を聞いて、相手の考えを理解することができる」の肯定的回答を89%以上にする。(R6年度 88.5%)</p>	
<p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>主体的・対話的で深い学びの授業に取り組む。</p> <p>指標</p> <p>○ 校内研修計画に従い、各学年で年間6回の全教員参観の授業研究を行う。それ以外の教員については、自由参加による授業研究を全教員が年間1回以上(年間20回以上)行う。(R6年度 25回実施)</p> <p>○ 児童アンケートにおいて「国語の学習がわかる」の肯定的回答を90%以上にする。(R6年度 国語89.5%)</p>	
<p>取組内容③【5、健やかな体の育成】</p> <p>○ 健康な生活習慣が身につくように継続的に指導する。</p> <p>指標</p> <p>○ 月に1回各学級で清潔調べを行い、健康な生活習慣が身につくよう児童に啓発する。</p> <p>○ 児童アンケートにおける、「毎日同じ時間に寝ている(起きている)」に対して肯定的に回答する児童の割合を89%以上にする。(R6年度 73.9%)</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

【年度目標】について

【取組内容】について

今後の改善点

・

(様式 2)

大阪市立春日出小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75% 以上にする。(R6 年度 74.7%) ② 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる、教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 100%にする。(R6 年度 100%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 一人一台学習者用端末などの I C T機器を効果的に活用する。	
指標 ○ 心の天気の入力や日々の授業など、一人一台学習者用端末を 1 日 1 回以上活用する ○ 児童アンケートにおいて「パソコンやタブレットを使った授業はわかりやすい。」の肯定的回答を 90%以上にする。(R6 年度 88.9%)	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 時間外勤務時間を減少させ、教職員が心身ともに健康に働くことができる職場環境づくりに取り組む。	
指標 ○ 「ゆとりの日（ノー残業デー）」を週に 1 回設定・実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について	
【取組内容】について	
今後の改善点	
・	